

下地島空港を活用した革新的航空パイロット養成事業

<利活用事業者>
株式会社FSO(沖縄県那覇市)

①事業の進捗状況

- 令和元年5月に下地島空港の訓練施設を開業し、シミュレーターによる基本操縦訓練及び航空座学を実施。
- 令和2年5月以降は、新型コロナ対策としてシミュレーター訓練と座学をオンライン化。
- リモート教育のスナップアスク(香港)とのアプリ開発にてオンライン教育のネットワーク強化。アジア各地の訓練生を囲い込み下地島訓練復活後に集客できるよう準備開始。
- 令和3年4月に米国ネバダ州のプライベートジェット運航会社付属飛行学校(米国提携会社)と提携し、米国における実機訓練の受入体制を構築。
- 令和4年6月に「米国提携会社」のパイロット職及び付属飛行学校チーフ職に代表が就任。訓練から就職までの一貫性を持たせることで下地島訓練復活後の集客力強化。



②事業の実績

<操縦士免許取得者数>

	目標	実績
○令和2年度	—	2人
○令和3年度	15人	0人

③事業の進捗評価

令和3年度操縦士免許取得者数

目標(A)	実績(B)	達成率(B/A)	進捗評価※
15人	0人	0%	大幅遅れ

※90%以上:順調、75%以上90%未満:概ね順調、60%上75%未満:やや遅れ、60%未満:大幅遅れ

④今後の取組

下地島訓練センターをアジア地域のパイロット訓練の一大拠点にすべく、コロナ禍の逆風下、次の事業展開を推進している。

米国ネバダ州プライベートジェット運航会社兼パイロット訓練校と独占的な業務提携を締結、また、代表自らその訓練校責任者と運航会社パイロットを兼務し、下地島・国内訓練と連携、確かな技術を持つプロパイロットを養成するパッケージ「訓練から就職までの一貫コース」を作り上げた。これは日米共に類を見ないユニークなパイロット養成の形であり、ここから日本へ還るプロパイロットたちの訓練地・就業地として、さらに下地島の価値・可能性を高めていく。

今後は、下地島空港訓練施設の買収、シミュレータ施設の充実、実機運航・整備管理基地化に着手する。また、実機を置く訓練校として、オンラインとは一線を画する場所を提供、学校法人化も見据えた活動を再開し、さらに新しい航空産業への参画、パイロット供給の役割を果たしていく。

県による事業レビュー

新型コロナの影響もあり、実機の調達などを含めた事業計画に遅れが生じており、下地島空港での事業は休止状態となっている。今後、下地島空港を活用した事業の早期再開が必要である。